

## 令和5年度 学校自己評価計画書

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	授業実践力の向上 (教科指導の充実)	教務課 (研究)	教科学習において、各々の先生方で児童生徒が主体的に学ぶための授業づくりを行っているが、互いに見合う機会が少なく、客観的に授業を検討する場が少ない。	【努力指標】 授業検討会と授業整理会とを合わせて参加者に対しアンケートを行い、授業内容について評価する。	授業づくりのPDCAサイクルが機能し、教科指導の充実に結びついたと実感した教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	【達成目標 B以上】 中間評価でC以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	その都度評価し累計の割合で評価していく。
2	地域社会との連携	小学部	コロナ禍中では、ボランティアの方による読み聞かせを除いては、地域の方と関わる機会がなかった。今年度は関わる場や相手を広げ、児童が色々な人と関わる経験を積めるようにしたい。	【成果指標】 長寿園、公民館、保育園等との交流を行い、交流の前後で児童が主体的に活動していたかなどの変容が「とても見られた」「見られた」「あまり見られなかった」の3段階で教員が判断して評価を行う。	3段階評価で「とても見られた」「見られた」と答えた教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	【達成目標 B以上】 中間評価でC以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	その都度評価し累計の割合で評価していく。
		中学部 高等部	コロナ禍中では、限られた人間関係の中での学習になっていたり、オンラインや活動場所、活動人数など工夫しながら活動をしたりしていた。しかし、生徒の成長にとっては十分ではなく、よりいろいろな人との交流が大切であると考えている。5類感染症への移行に伴い、地域の団体や人材との連携を図り、より交流が図れることに期待したい。	【成果指標】 交流などの授業や活動の目的に照らして、生徒の様子や発言から満足できるものであったかを、授業や活動に関わった教員全員に対し、「大変よかった」「よかった」「十分ではない」の3段階で毎回アンケートを行い評価する。	3段階評価で「大変よかった」と答えた教員の割合が A：80%以上である。 B：70%以上である。 C：60%以上である。 D：60%未満である。	【達成目標 B以上】 中間評価でC以下であれば取り組み内容及び方法を再検討する。	その都度評価し累計の割合で評価していく。
3	安心・安全な学校づくり (メディア・ICTの適切な活用)	全学部	一人に1つタブレット端末が割り当てられ、授業等で活用している。ただ、子どもたちによって操作方法の習熟に差があるだけでなく、使い慣れている子どもたちは興味のあるアプリや情報に偏る傾向があり、使い方のルール等も学ぶ必要がある。	【努力指標】 各学部、児童生徒の理解度に合わせてICT機器の使い方やルール、メディアリテラシー等に関する授業を行う。	メディア・ICT機器の適切な活用に関する授業を行った回数 A 8回以上である。 B 7回である。 C 6回である。 D 5回以下である。	【達成目標 B以上】 中間評価でC以下の場合は、授業の計画を再検討する。	9月、2月に授業実施回数を数える。